

PART2(午後の部)夕陽丘周辺

1 加賀藩大坂蔵屋敷ゆかりの石鳥居(太平寺) 天王寺区夕陽丘町1-1

- ▶ 太平寺では境内に虚空蔵菩薩をまつり、古くから「十三まいり」で有名です。
加賀藩のゆかりのある寺で、歴代藩主の位牌を安置した位牌堂がありました。戦災で焼失しました。
加賀藩大坂蔵屋敷内には、菅原道真を祀る天満宮があり、その天満宮の石鳥居が太平寺にあります。



加賀藩大坂蔵屋敷ゆかりの石鳥居

2 小説「燃えよ剣」ゆかりの地 料亭 西昭庵 (さいしょうあん) 跡

天王寺区六万休町1-20

- ▶ 「浮瀬(うかむせ)」、「福家席」と並んで大坂を代表する料亭「西昭庵」が夕陽丘にありました。
場所は、現在でいうと夕陽丘学園(旧大阪女子学園)のあたりになります。

司馬遼太郎の小説「燃えよ剣」ゆかりの地です。

森に冠木門があり、粋な軒行燈がかかげられている。西昭庵 料亭である

「へい、ここでございます」

と、駕籠かきが駕籠をおろし、相棒のひとりが門からの小径(こみち)を駆けて行った。客が来たことを報らせるつもりであろう。

「ご苦労だった」と歳三は酒代をはずんでやった。(途中省略)

西昭庵では、西側の部屋へ通された。(いい部屋だな)歳三は、すわった。(途中省略)

はるかな眼の下に、浪華の町がひろがっていた。

そのむこうは、海。北摂、兵庫の山々が見える。

陽がたったいま、赤い雲を残して落ちてゆこうと

している。「大変な夕陽ですな」と歳三も立ち

上がった。「だからこのあたりを夕陽ヶ丘という

のでしょうか」(新潮文庫「燃えよ剣」下巻 P195より)



料亭 西昭庵跡周辺



土方歳三

3 新選組ゆかりの地 新選組宿舎跡(大寶寺)

天王寺区生玉寺町6

- ▶ 慶応元年(1865)5月より、第14代将軍徳川家茂の上洛に備え、大坂の警衛を行っていました。
祭礼の件で大坂天満宮などの宿舎に集合をかけたことが資料として保存されており、字は違いますが「下寺町の大法寺」に出向き、三木という隊士が対応したと記載されています。



4 藤沢東暎、藤沢南岳 墓(齡延寺)

天王寺区生玉町13-31

- ▶ 儒学塾 泊園書院を開いた藤沢東暎やその嫡男南岳の墓があります。藤沢東暎は讃岐の安原で生まれます。18歳のとき高松で開塾。23歳のとき長崎で中国語を習得します。文政7年(1824)30歳のとき大坂に出て塾を開きます。さらに翌年には「泊園書院」という学問所を開きます。東暎の名声が高まり、高松藩から土分として儒官に取り立てられます。元治元年(1864)、高松藩主と共に上京し、二条城で第14代將軍徳川家茂に謁見し、葵の紋付を將軍からもらい受けています。



右: 藤沢東暎、左: 藤沢南岳 の墓碑

同年12月、病気のため亡くなり、泊園書院は一時閉められます。嫡男の藤沢南岳が父の遺志を引き継ぎます。戊辰戦争が始まると、高松藩の藩論を幕府より新政府につくことを説き、成功します。維新後、南岳は官職に就かず、泊園書院を再興させます。

5 土佐勤王党 島村寿太郎 墓(齡延寺)

天王寺区生玉町13-31

- ▶ 土佐藩郷土島村源次郎の子。天保3年(1832)3月に生まれます。姉の富子は武市半平太の妻です。文久元年(1861)、土佐勤王党に加盟します。同2年、五十人組の総頭として山内容堂の護衛のため江戸に赴きます。同3年の容堂上京の時も随行しています。勤王党弾圧の際、投獄されますが、慎重な態度をとったため難を逃れました。武市半平太が切腹する際、小笠原忠五郎とともに介錯人を命じられ、役目を果たしています。※「竜馬がゆく」第4巻(文春文庫) P261参照 出獄後、戊辰の役では従軍し活躍しますが、明治6年12月2日、大阪で死亡しました。



6 土佐藩刀工 左行秀 墓(齡延寺)

天王寺区生玉町13-31

- ▶ 左行秀(さのゆきひで)は、伊藤又兵衛盛重の嫡男として、文化10年(1827)、筑前国上座郡朝倉星丸の里に生まれました。天保初年出府し、細川正義門人清水久義に鍛刀の技を学び、弘化3年、行秀34歳の時、土佐藩工関田真平勝弘の勧めにより土佐に下りました。その後、江戸の深川砂村の土佐藩邸に居所を構え、土佐藩工となります。慶応3年5月、板垣退助との不和が元で、同年夏、土佐に帰ります。行秀の作刀は明治3年で終わり、晩年は明治20年75歳で没するまで、嫡子幾馬と横浜で暮らしました。



7 源 聖 寺 坂

天王寺区下寺町1-2-36

- ▶ 下寺町1丁目にある源聖寺の南側から生玉寺町に至る狭く曲がった石畳の坂です。この坂は登り口に源聖寺があるので、源聖寺坂と名づけられました。源聖寺坂や口縄坂など夕陽丘にある坂は、上町台地の代表的な坂で、遊歩道としても知られています。最初は石畳道ですが、やがて階段状になっています。



新選組ゆかりの地

8 新 選 組 大 坂 屯 所 跡 (萬福寺) 9 儒 学 者 藤 井 藍 田 終 焉 の 地

天王寺区下寺町1-3-82

- ▶ 萬福寺を開いた僧 開尊は、戦国武将 加賀の前田利家の弟にあたります。その萬福寺は、幕末期に一時的な期間だけ新選組の大坂屯所にあてられました。昭和45年の火災で本堂が焼けて新築されており、当時の面影は残されていません。天保年間に建てられた灯籠が残っており、幕末当時の姿を偲ばせています。この新選組大坂屯所の隊長に、谷三兄弟の次兄 谷 万太郎が任命され、20人ほどが詰めていたようです。慶応元年(1865)5月26日、南堀江で私塾「玉生堂」を開いていた勤皇派の儒学者 藤井藍田を捕らえ、この屯所の納屋を臨時の牢獄にしたたうえ、そこに放り込みます。捕縛理由は、倒幕の密謀をおこなったためということです。



萬福寺



実際は、大坂屯所に詰める新選組の功績を挙げたかったため、たまたま紀州藩邸に近い場所で私塾を開いていた藍田を怪しいというだけで捕らえたとの説があります。新選組は藍田を非情ともいえる拷問にかけ、何も喋らない藍田を槍で刺し殺してしまったそうです。その時の槍きずが納屋の柱に残されていたようです。絶叫をあげ拷問死した藍田の声が、当時の住職の耳に残り、納屋を板で囲ってしまったそうです。納屋を含め本堂は戦災に遭わなかったのですが、昭和45年の火災ですべて焼失してしまいました。



大阪市西区にある藤井藍田私塾跡

谷 万太郎は谷 三十郎の弟、谷 周平(のちに近藤勇の養子となり近藤姓を名乗ります)の兄にあたります。備中高梁の出身で、備中松山藩士の家に生まれます。安政3年(1856)頃、兄 三十郎の失策によりお家断絶となり、三兄弟は大坂に出てきます。万太郎は南堀江2丁目の酒屋サカナツの納屋を借り、剣術・槍術の道場を開きました。



谷 万太郎